

医科歯科連携を知っていますか



健康 コラム



秋田厚生医療センター

がん薬物療法看護認定看護師 看護師長 奈良 祐子

口腔ケアと災害関連死

令和6年能登半島地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。地震のニュースで、災害関連死として【断水】→【口の中が清潔に出来ない、口の中で細菌が増えやすくなる】→【細菌や食べ物が誤って気道に入り、誤嚥性肺炎を起こす可能性があり、時に高齢者では命に関わる】と、見たり、聞いたりしたことはありませんでしたか？口の中の清潔を保つことはとても大切です。口には、食べ物をかみ砕く、消化、嚥下(飲み込む)食事に関わる働き、味覚で食欲に関わる働き、会話に関わる働きなどがあります。唾液は口の中を湿らせて、口の中を清潔にしています。薬物治療(抗がん剤治療)で起こる口の中のトラブルは、先に述べた働きに影響を起こす可能性があります。

薬物治療(抗がん剤治療)の副作用

薬物治療によって起こる口腔粘膜炎(口内炎)は抗がん剤による直接的な作用と抵抗力の低下による細菌などの感染により発生します。抗がん剤の投与後、数日～10日目頃に発生しやすく、2～3週間で徐々に回復します。発生頻度は30～40%と比較的頻度の高い副作用です。口内炎は痛み、出血、熱いものや冷たいものがしみる、口が渇く、赤くなって腫れる、口が動かしにくい、ものが飲み込みにくい、味が変わるなど日常生活に大きく影響することがあります(厚生労働省「抗がん剤による口内炎」より引用)。口内炎は抗がん剤により生じますが、これまでの歯磨きや、口の中の状態が大きく影響してきます。う歯、歯周病などがある場合は口内炎が重症化しやすく、義歯が合わない場合は、口の粘

膜が傷付きやすくなり、口内炎が出来やすくなります。また、抗がん剤治療の代表的な副作用、骨髄抑制の白血球減少(抵抗力が落ちる)や止血作用を持つ血小板減少の期間は、歯科治療が制限されることがあります。抗がん剤治療で身体へ影響があるとき、口内炎の痛みで、食事が摂れない、歯磨きなんてとても無理、さらに抵抗力が低下してしまう…。悪循環状態となってしまいます。口の中に髪の毛1本でも入ってしまうとすぐ気づき、気になりますよね。それ位、口の中は敏感です。口内炎の薬、痛みを和らげる薬でももちろん早期から対応しますが、少しでも苦痛を減らすために出来ることがあります。

医科歯科連携とは

治療開始前に歯科受診し口腔内のトラブルを可能な限り軽減するために、薬物治療を受ける病院と地域の歯科医が連携し、抗がん剤治療を受ける患者様の治療環境を整えることを医科歯科連携と言います。当院も、医科歯科連携を行っています。

薬物療法が必要と説明を受けたら

歯科受診状況について確認を行います。通院している歯科医院がある患者様へは可能な範囲で**治療開始前**に、口腔内の状態の診察をお願いしています。通院している歯科医院がない場合は、地域の歯科医院を紹介します。歯科受診は症状を自覚してからの受診ではなく、定期検診・クリーニングが大切と言われていきます。しばらく歯科受診していない方は、ぜひ受診を!!

